

平成24年度

「高校生による、子どもの読書活動アシスト」
記 録 集

青森県立図書館

「高校生による、子どもの読書活動アシストについて」

図書館の子どものための行事に、地元の高校生ボランティアの方々にお手伝いいただいた際のことです。図書館員と高校生ボランティアが協力して、子ども達への読み聞かせや一緒にペープサート作りなどするというイベントでしたが、子ども達は、図書館員と一緒に何かをやるよりも、高校生のお姉さん、お兄さんに、読み聞かせをしてもらったり、工作を教えてもらったりする方が、より興味をもち、また、より楽しそうだと感じました。

また、最初は照れていた高校生達が、子ども達に接するうち、積極的に声をかけ、工夫して教えるようになっていく姿をととても頼もしく感じました。

高校生と一緒に、もっと子ども達に「楽しい! 」と思ってもらえる図書館活動をしていけないだろうか、高校生に、図書館としてもっと活動の場を提供していけないだろうか、という考えから本事業は始まりました。児童室で毎月実施しているテーマ展示のディスプレイ（ロビー側展示スペースの大型ガラス部分への飾りつけ）の作成を募集したところ、県内8校の高校生達から参加希望があり、それぞれが工夫をこらして子ども達のために心を込めて素敵なディスプレイを作成してくれました。どのディスプレイも、本の世界を彩る魅力にあふれ、子ども達の世界を更に大きく、深く広げてくれたことでしょう。

また、この事業を通じて、図書館での読み聞かせ、青森県近代文学館での朗読イベントに参加していただいた高校もありました。

この事業が、子どもたちに本の魅力を伝え、子どもの読書活動の一層の推進を図るとともに、高校生に社会参加活動や就業体験のきっかけとなる場を提供することで、図書館利用及び図書館活動の活性化となれば幸いです。

目 次

9 月	テーマ「おいも」	5
	青森高等学校“AKG2”	6
10 月	テーマ「まほう&まじよ」	9
	弘前実業高等学校“弘実レインボーガールズ”	10
	青森東高等学校“釉唄” ^{ゆうた}	12
12 月	テーマ「クリスマス」	15
	弘前工業高等学校“図書委員会&美術部”	16
	弘前実業高等学校“チーム服デ”	18
	光星学院野辺地西高等学校“野西高3 3 HR”	20
1 月	テーマ「へび」	23
	田子高等学校“田子高校1年図書委員会”	24
2 月	テーマ「ひっこし」	27
	青森戸山高等学校“青森戸山高校美術科有志”	28
	青森中央高等学校“青森中央 Girls& Boy”	30
	【記事紹介】東奥日報に紹介されました。	34
◆関連事業◆	朗読会及びおはなし会の記録	35
	青森県近代文学館 企画展「加藤謙一と佐藤紅緑」記念 高校生による 佐藤紅緑作品 朗読会	36
	青森放送アナウンサーと高校生によるおはなし会	38

9月

【テーマ】 「おいも」

【展示期間】 8月24日～9月26日

【担当校】 青森高等学校

【図書館での資料展示】

『おおきなおおきなおいも』（赤羽末吉/さく・え 福音館書店 1972）や『14ひきのやまいも』（いわむらかずお/さく 童心社 1984）、『うちのコロッケ』（谷口國博/文 村上康成/絵 世界文化社 2007）『おイモのひみつ たのしい料理と実験』（小竹千香子/著 永井泰子/絵 さ・え・ら書房 1998）、『ブタとサツマイモ 自然のなかに生きるしくみ』（梅崎昌裕/著 小峰書店 2007）など、実りの秋の味覚、「おいも」に関する様々な本や紙芝居を集めて紹介しました。



●青森県立青森高等学校●

【チーム名】 AKG2 (2年生1名, 1年生1名)

【担当の先生】 工藤 知明 先生

【希望のきっかけ】 I Love Potato

【担当してくれた皆さんから】

“アピールポイント”

「お芋への愛を、全力で注ぎました！」

“苦勞ポイント”

「表裏を合わせることが難しかったです。」

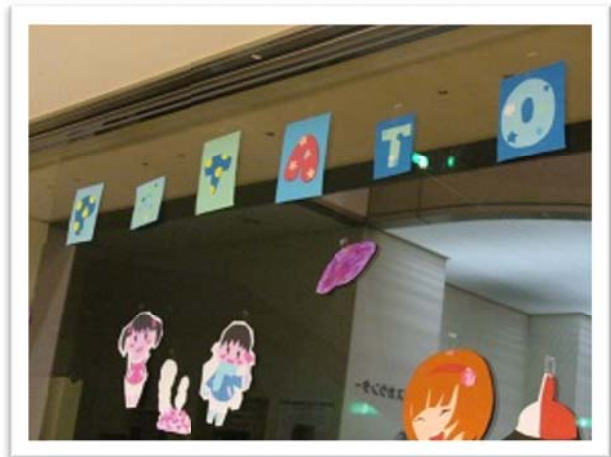
“こだわりポイント”

「大物をメインに、小物は自由感を持たせるため、敢えてバラバラにしました。」

●ちょこっとエピソード●

実は、人気が無かったテーマ「おいも」…。イメージが膨らみにくかったようで、募集当時は希望してくれる学校がありませんでした。そんな中、どのテーマでも、と名乗りを上げてくださったのが青森高校さんです。

トップバッターで手探り状態だったと思いますが、女子2人組が、とってもかわいいディスプレイを作成してくださいました。男の子の紅白帽ウルトラマンが、担当一同を小学校時代にタイムトリップさせてくれた作品です。





10月

【テーマ】 「まほう&まじよ」

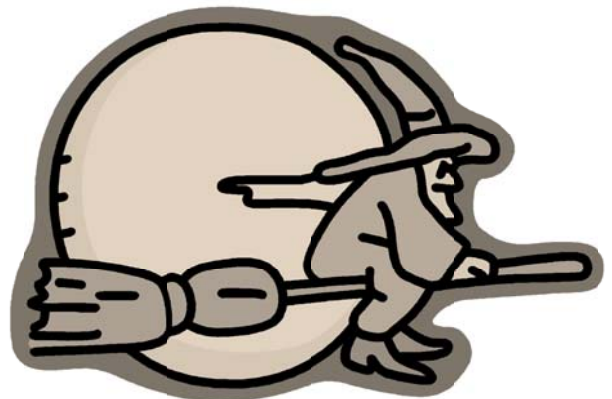
【展示期間】 9月28日～10月24日

【担当校】 弘前実業高等学校

青森東高等学校

【図書館での資料展示】

『まほうつかいのノナばあさん』（トミー・デ・パオラ/ぶん・え ゆあさふみえ/やく ほるぷ出版 1980）や『悪魔のりんご』（舟崎克彦/作 宇野亜喜良/画 小学館 2006）、『魔術事典 「知」のビジュアル百科 11』（ダグラス・ヒル/著 高山宏/日本語版監修 あすなろ書房 2004）『魔女に会った たくさんのふしぎ傑作集』（角野栄子/文・写真 みやこうせい/写真 福音館書店 1998）など、ハロウィンに合わせ、魔女や魔法にまつわる本や紙芝居を集めて紹介しました。



●弘前実業高等学校●

【チーム名】 弘実レインボーガールズ（7名）

【担当の先生】 佐々木 孝子 先生

【希望のきっかけ】 発達と保育の学習において、学んだ知識や技術を生かすことができるきっかけとして。

また、家族の役割や地域の子育て支援の意義を認識できる機会ととらえ応募を勧めた。

【担当してくれた皆さんから】

「『発育と保育』の授業を選択している3年生7人で、子どもたちが喜ぶ姿を想像して作りました。」

「間違い探して、中に入ってみたくなるワクワク感を子どもたちが感じてくれることがポイントです！」

「素材に工夫しました！フェルトや毛糸で立体感を出しました。触って感触も楽しんでください。」

「一つ一つ違う星があります。その違いを味わってください！」

「クッキーの洋服も細部まで工夫しました！」

「マントも工夫しました！」

●ちょこっとエピソード●

弘前実業高校は、2チームでの申し込みがありました。事前に出された希望の消耗品「ゴミ袋」に、一体どんなディスプレイができるのか、とても楽しみでした。

（なんとゴミ袋は魔女の素敵なマントに変身していました）

ディスプレイは児童室の中と外のエントランス側から同じに見えるように作成しますが、それを利用して「間違い探し」にしてしまうなど、高校生の発想って柔らかくて素晴らしい！と改めて感心させられた作品です。



●青森東高等学校●

【チーム名】 ^{ゆうた} 釉唄 (1名)

【担当の先生】 佐藤 広野 先生

【希望のきっかけ】 図書委員として活動をしていることもあり、図書館の仕事に携わってみたいため。

【担当してくれた皆さんから】

“アピールポイント”

「魔女が通った後のカボチャだけが顔つき、という事です。」

●ちょこっとエピソード●

事前にいただいた図案が既にかわいらしく、出来上がりをととても楽しみにしていました。折り悪く大雨でディスプレイが濡れてしまい、急遽作り直して下さるというハプニングもありましたが、実物は図案よりも更に素敵に仕上がっています。

10月の展示には2校の申し込みがあったため、釉唄さんのディスプレイは、林に面した児童室南側の窓に飾られました。実際に展示してみると、まさに魔女が森を飛んでいるよう！舞台装置効果で、更に素敵度が倍増しました。





12月

【テーマ】 「クリスマス」

【展示期間】 12月5日～12月26日

【担当校】 弘前工業高等学校

弘前実業高等学校

光星学院野辺地西高等学校

【図書館での資料展示】

『ポインセチアはまほうの花 メキシコのクリスマスのおはなし』（ジョアンヌ・オッペンハイム/文 ファビアン・ネグリン/絵 宇野和美/訳 光村教育図書 2010）や『子うさぎましろのお話』（ささきたづ/ぶん みよしせきや/え ポプラ社 1970）、『聖なる夜に』（ピーター・コリントン/作 BL出版 2000）、『サンタクロースへの手紙』（サンタピア委員会/監修 世界文化社 1987）など、クリスマスの世界を彩る本や紙芝居を集めて紹介しました。



●弘前工業高等学校●

【チーム名】 図書委員会&美術部（4名）

【担当の先生】 幸山 朋人 先生

【担当してくれた皆さんから】

“アピールポイント”

「サンタからの大小のプレゼントの中身を想像しながら見てほしい。」

“苦勞のポイント”

「雪の結晶の形をカットするのが難しく根気が要りました。」

“こだわりポイント”

「サンタとトナカイを中心に光り輝く雪とカラフルなプレゼントを画面いっぱい配置して楽しい感じにしました。」

●ちょこっとエピソード●

ディスプレイ作成の参加校を募集した際、真っ先に応募してくだっただのが、弘前工業高校でした。

たくさんのプレゼントやキラキラ光る星と一緒に、かわいいサンタさんとトナカイさんが飛ぶ様は、まさにクリスマスの王道。プレゼントのリボンがヒイラギになっているのもとても素敵な演出でした。



●弘前実業高等学校●

【チーム名】 チーム服デ (5名)

【担当の先生】 佐々木 孝子 先生

【希望のきっかけ】 (10月「まほう&まじよ」参照のこと)

【担当してくれた皆さんから】

「裏表対象にするのが大変だった。少しずれているところもあったけれど、これを見て子どもたちに喜んでほしい。こういった大きいものを作るにはみんなで協力しなければいけないのだとよく知った。」

「クラスのメンバー全員で一つの作品を作っている中で知らず知らずのうちに協力し、まとまりが生まれたと私は感じます。この作品の完成よりも、この世の中で一番大切な財宝を手に入れたと思う。」

「トナカイの形よりリアルにするために頑張った。」

「ツリーは大きい分作るのが大変でした。左右対称に長さをそろえることが出来ずに何回もやり直してしまったので、失敗したあとからはきちんと長さを測り一つ一つのパーツの長さや角度を確認して合わせながら作りました。飾りつけも全体が明るく、子どもたちから見て楽しくなるように考えてやりました。めんどくさい作業もあって、だけど、どんどん出来上がっていく作品を見ていくのが楽しかったし、うれしかったです。」

「これを見て子どもが喜ぶ姿を想像しながら作りました。また、やっぱり手作りの作品はあたたかさがあって優しいと思いました。」

「壁画用に与えられたスペース全体を使えるようなデザインにしました。画用紙だけではなく、セロフォアンやフェルトなど、色々な素材を使ってより雰囲気が出るように工夫しました。」

「全体のバランスを考えながら、ベットの大きさや飾りを工夫したり、飾りもちよつとでもかわいくするようにさらにつけたりなどしました。」

●ちょこっとエピソード●

青いセロハンで作った夜空をサンタさんが飛ぶ、幻想的なディスプレイです。南側の窓の外の林も、ちょうど雪景色。表裏で作っていただきましたが、あまりにかわいいので、もっとたくさんの方に見ていただきたいくなり、児童室と一般室を結ぶ通路にも飾らせていただきました。



●光星学院野辺地西高等学校●

【チーム名】 野西高33 HR (20名)

【担当の先生】 槇 晴美 先生

【希望のきっかけ】 3年間学習した造形活動を子どもたちの読書活動推進に役立ててもらえればと思い、参加希望しました。

【担当してくれた皆さんから】

「保育の勉強をしている人間福祉系列の生徒20人で作りました。クリスマスの作品を見て、子どもたちが笑顔になってくれたら嬉しいです。」

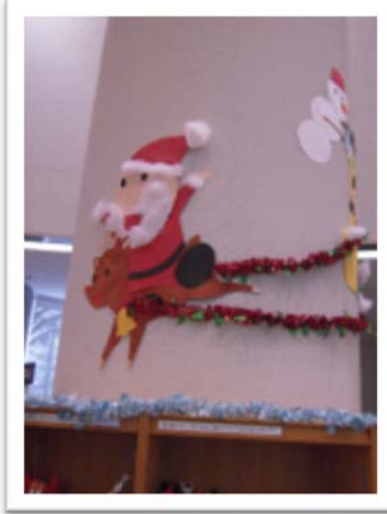
“アピールポイント”

「紙だけではなく、毛糸や綿、フェルト、セロファンも使って工夫してみました。作品を見て、クリスマスが待ち遠しくなる、わくわくする感じが少しでも出せたらと思い、心をこめて作りました。」

●ちょこっとエピソード●

野西高33 HRは、今回最多の20名での参加でした。最初は児童室の入り口のディスプレイのみをお願いしていましたが、折角の大人数での参加、中央の柱や、一般室にある「子育て支援コーナー」などのディスプレイをお願いしたところ、快く引き受けてくださったうえ、他の場所の分まで作って来てくださいました。児童室のみならず、図書館全体が、華やかなクリスマスであふれた12月でした。





1月

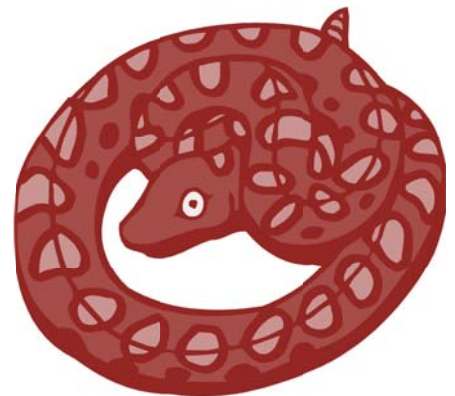
【テーマ】 「へび」

【展示期間】 12月26日～1月23日

【担当校】 田子高等学校

【図書館での資料展示】

『へびのヴェルディくん』（ジャネル・キャンノン/作 今江祥智/訳 BL出版 1998）や『へびのクリクター』（トミー・ウンゲラー/作 中野完二/訳 文化出版局 1974）、『みりよくのみ へび年のひとの絵本』（五味太郎/作 クレヨンハウス 2007）、『ハブの棲む島 伝説のハブ捕り名人と奄美の森の物語』（西野嘉憲/写真・文 ポプラ社 2005）、『青森の伝説』「八の太郎と南蔵坊ー上北郡十和田湖町ー」（青森県小学校国語研究会/編 青森県児童文学研究会/編 日本標準 1980）など、今年の干支である「へび」の魅力に迫る本や紙芝居を集めて紹介しました。



●田子高等学校●

【チーム名】 田子高校1年図書委員会（4名）

【担当の先生】 佐藤 美智子 先生

【希望のきっかけ】 十二支それぞれの姿を想像すると、楽しそう、といった生徒の感想を聞きました。その一つである「へび」についてもディスプレイのアイデアがどんどん浮かびそうだと意欲的であったので希望します。

【担当してくれた皆さんから】

“一年生図書委員の紹介”

「短い限られた期間の中で少ない人数で自分たちにできることを一生懸命やりました。普段の生活ではあまり関わる機会の多くない4人ですが、図書委員でこの制作をしているうちに仲良くなれました。」

“大変だったところ”

「へびの縁取りです。バイヤステープをボンドで貼り付ける作業は苦労しました。カーブの部分をきれいに貼るのが大変でした。」

“見てほしいところ ”

「へびの布の配列を考えました。濃い色から薄い色への変化があるように。グラデーションを意識しました。」

●ちょこっとエピソード●

今年の干支であるへび。ちょっぴり怖いイメージのあるへびですが、色々な布を使って、かわいらしく、華やかに仕上げてくれました。しっかりした作りでしたので、相談の上、窓の上から吊るして飾ることに。児童室側からは花柄、エントランス側からはシマシマの、おしゃれなへびが子ども達をお出迎えです。冬眠しているへびさん達からツチノコを探す「つちのこ探せるかな？」も、へびからツチノコを発想するというアイデアに脱帽です。





2月

【テーマ】 「ひっこし」

【展示期間】 1月25日～2月27日

【担当校】 青森戸山高等学校
青森中央高等学校

【図書館での資料展示】

『とんことり』（筒井頼子/さく 林明子/え 福音館書店 1986）、『ありがとうのきもち』（柴田愛子/文 長野ヒデ子/絵 ポプラ社 2002）『野鳥もネコもすくいたい！ 小笠原のノラネコ引っこし大作戦』（高橋うらら/文・写真 永吉カヨ/絵 小笠原自然文化研究所/監修 東京都獣医師会/監修 学研教育出版 2011）、『転校生は忍びのつかい』（加部鈴子/作 平澤朋子/絵 岩崎書店 2012）など、新しい生活への期待とちょっぴり不安な気持ちが入り交じる、「ひっこし」に関する本や紙芝居を紹介しました。



●青森戸山高等学校●

【チーム名】 青森戸山高校美術科有志（9名）

【担当の先生】 吉澤 美津子 先生

【希望のきっかけ】 美術科として校外の活動で共同作業ができることに興味をもったから。

【担当してくれた皆さんから】

『森のひっこし屋さん』をテーマにつくりました。子供のきもちになって考えました。動物の愛嬌が出るように工夫しました

やぎじい「みんな頼りになるなあ」
りすお「みんながんばってるなあ」
くまごろう「ぼくが一番力持ち！」
うさみ「あたしだって力持ちよ！」
にゃん太郎「おいらのチャームポイントはおへそだよ！」
ちゅー太「待てよー」
ちゅー子「うふふー」
ぴーすけ「おひっこし手伝うぞ！」
ぴーちゃん「ぴーぴー！」
わんたん「図書館に来たみなさんに、たくさん本を読んでもらえたら嬉しいです。」

●ちょこっとエピソード●

創立30周年を迎え、来年には青森東高等学校と統合となる青森戸山高等学校。現在は3年生のみ在籍しています。今事業最後のテーマとなる「ひっこし」に、是非お手伝いいただけないかとお願いして、引き受けていただきました。出来上がったディスプレイは、まさに物語の世界。素敵なストーリーとともに、楽しい想像が膨らみました。



●青森中央高等学校●

【チーム名】 青森中央 Girls&Boy (12名)

【担当の先生】 木下 和子 先生

【希望のきっかけ】 総合学科の生活科学系列で保育の科目を選択しています。「児童文化」という科目で絵本や壁面構成についても勉強しているので、今回の児童室ディスプレイを希望しました。

【担当してくれた皆さんから】

「青森中央高校、生活科学系列の保育選択者一同で作りました。新居を目の前にはしゃぐ子どもたちや、その子どもを見て微笑む大人を表現しました。新しい生活が始まる家族の、これからの期待を感じてもらえれば嬉しいです。」

「“引越し”という題材は少し難しかったです。みんなそれぞれの発想を一つの作品にして、とてもいいものになりましたと思います。色の組み合わせなどを考えるのが、少し難しかったです。」

「引越しを題材にしたので、人物や人の動きを考えるのに苦労しました。みんなで協力して作ることができてよかったです。」

「“引越し”というテーマはとても難しかったです。まずは引越しといえどということ、みんなで案を出し合いました。細かいところまでちゃんと作ったので、子どもたちに何か伝わってくればいいと思いますし、何より子どもたちが笑顔で楽しんでくれたらと思います。」

「最初はテーマが「引越し」ということで、難しく、どんなものが完成するのか不安でしたが、みんなでアイデアを出し合って協力して作ったら、可愛い作品ができたので、良かったと思います。」

「人物を作るときに、ちゃんと人物っぽく見せるところが大変でした。」

「“引越し”というテーマを聞いたとき、なかなかイメージが浮かばなかったけれど、みんなが描いた絵を参考にして協力して完成することができて楽しかったです。良い思い出になりました。」

「引越しというテーマはどういう風にするか、考えるのが難しかったです。荷物をダンボールで作ったりしたので、そこを見て欲しいです。」

「さくらの花びらをちぎって作るのが大変だったけど、リアルにできたから良かったです。」

「和紙を使って、花っぽくできてよかったです。」

「さくらの花を、ちぎり絵の技法で表現できました。」

「さくらをちぎり絵にしたのがポイントです。」

●ちょこっとエピソード●

児童室に見学のため来館した際、ディスプレイを見て参加を申し込んでくださった青森中央 Girls&Boy さん。ちぎり絵の技法で作った桜の木は、とても華やか。窓の外はまだまだ寒い雪景色でしたが、児童室が一気に春めきました。

また、お父さんが持っている段ボールは、実際に段ボールとガムテープで作ったなど、随所にこだわりが。

ちなみに、チーム名は、Boys の間違いではないの？ と質問がありましたが、間違いではありません。その理由は、HP の制作風景にヒントが…。





【記事紹介】 東奥日報に紹介されました。

第43616号

(第三種郵便物認可)

東 奥



12月の「クリスマス」の飾り付けをする職員



青森高の生徒が制作した9月の「おもい」

青森・県立図書館

児童書の世界 高校生表現

月ごとにテーマ飾り付け

青森市の県立図書館で、県内の高校生たちが児童向けの本の世界を表現した飾り付けが、利用する子どもや保護者らの目を惹きつけている。クリスマスやハロウィンなど、月別に本を特集する「テーマ展示」に合わせたほのぼのとした飾り付けで、同図書館関係者は子どもたちがディスプレイを見て、年の近いお兄さん、お姉さんたちが作っているんだと楽しんで、もっと本に興味を持ってもらえればと話している。(白鳥遼)

トレンド あおもり

9月のテーマは秋の味覚にちなみ「おもい」、10月はハロウィンで「まほう&まじよ」、12月



10月のテーマ「まほう&まじよ」の飾り付けを作る弘前実の生徒

はクリスマス。11月は別イベントの都合で展示無し。募集に応じた青森は図書館側が用意した。高弘前実、青森東、弘前工、野辺地西の生徒たちが、さまざまな色の紙やセロハンなどを使い、テーマに合わせたかわいらしい世界観を表現した。美術部員や図書委員のほか、クラス単位で制作に臨んだ学校も。材料



青森東の生徒による「まほう&まじよ」の飾り

12月のクリスマスは「ちなんだへび」、2月当した学校の1つ、弘前は「ひつし」をテーマにした豊田梨乃さん(2年)、今井神郷君(同)、清水奈織子さん(38)は「子どもたちと年齢の近い高校生を力借りて何かできないか」と思っていたので、飾り付けには「私たちが思いつかない素材の組み合わせもあり、さすが」と話している。来年度も事業を継続する予定。問い合わせは同図書館参考郷土室(電話017-729-4311)へ。

東奥日報 夕刊 平成24年12月18日 第4面掲載

この画像は、当該ページに限り東奥日報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

◆関連事業◆

朗読会及びおはなし会の記録

高校生による 佐藤紅緑作品 朗読会



当館併設の青森県近代文学館の企画展「加藤謙一と佐藤紅緑」（平成 24 年 10 月 13 日～11 月 25 日）を記念し、「高校生による佐藤紅緑作品朗読会」を青森県近代文学館ロビーで開催しました。

朗読した作品は、弘前出身の「少年倶楽部」編集者 加藤謙一の勧めで書き始めた、同じく弘前出身 佐藤紅緑の少年向け小説「少年讃歌」です。

日 時：平成 24 年 10 月 28 日（日） 午後 2 時 45 分～3 時 15 分

朗 読：弘前工業高等学校（図書や朗読に興味のある生徒） 6 名

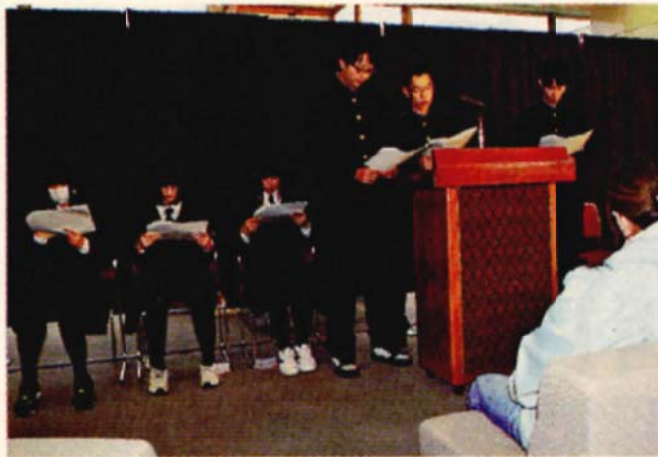
朗読作品：「少年讃歌」（佐藤紅緑作品）

担当教諭：幸山朋人 先生

弘前工業高等学校生徒の皆さんのみずみずしい朗読によって、紅緑作品に命が吹き込まれました。

今読むと、どうしても古めかしい印象が否めない紅緑の文章が、高校生の声で読み上げられると、古さを感じなくなるから不思議です。特に、登場人物と同年代の男子生徒二人による会話の掛け合いは絶品でした。

作品中の少年達の苦しみ、喜びがリアルに伝わり、当時の読者の感動を追体験することができました。（青森県近代文学館）



朗読を披露する弘前工業高校
図書委員会メンバー

佐藤紅緑の魅力伝える

県近代
文学館

弘工高生が作品朗読

弘前工業高校の生徒6人による佐藤紅緑作品朗読会が28日、青森市の県近代文学館で開かれた。生徒たちは昭和の初めに劇作家や大衆小説家として活躍した弘前市出身の佐藤紅緑の作品「少年讃歌」を朗読、市民ら約40人

が作品の魅力に浸った。県近代文学館の企画展「加藤謙一と佐藤紅緑」に合わせて、出身地の高校生が朗読すること、佐藤作品の魅力を知ってもらおうと県立図書館が開いた。朗読に挑戦したのは同

校図書委員会の2年豊田梨乃さん、今井紳椰君、加賀匠君、杉山拓司君、藤田明子さん、1年竹浪光さんの6人。弘前市の少年が主人公の「少年讃歌」を朗読し、ナレーションで「今から80年以上前の

作品だが、貧困、不況、格差など今も変わることなく存在する社会問題。困難に負けずに生きようとする少年少女の姿もまた変わらなれないのではないか」など独自の視点を織り交ぜながら紹介。終了後、今井さんは「文脈から主人公の気持ちを考えるなど工夫した。初めての朗読会だったがうまくいった」と話した。(成田真由美)

(陸奥新報社提供)

この画像は当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。
転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

青森放送アナウンサーと高校生によるおはなし会

読みきかせ活動の一環として、小学校等の夏季・冬季休業期間中に、青森放送（RAB）アナウンサーと高校生ボランティアによるおはなし会を当館児童閲覧室おはなしコーナーで実施した。

1 夏休みおはなし会

日 時：平成24年8月21日（火）・22日（水） 午後2時～2時30分

実 演 者：青森高等学校 図書委員 各日1名（計2名）

読んだ絵本：テーマ「読み継がれてきたお話」

21日『にんじんさんがあかいわけ』（松谷みよ子/ぶん ひらやまえいぞう/
え 童心社 1990）

22日『かぼくん』（岸田衿子/作 中谷千代子/絵 福音館書店 1973）



平成24年8月21日



平成24年8月22日

2 冬休みおはなし会

日 時：平成 25 年 1 月 9 日（水）・10 日（木） 午後 2 時～2 時 30 分

実 演 者：青森中央高等学校 総合学科（保育選択者） 各日 2 名（計 4 名）

読んだ絵本：テーマ「心が温かくなる本」

9 日『なかよしゆきだるま』（白土あつこ/作・絵 ひさかたチャイルド 2011）

『おへんじください。』（山脇恭/作 小田桐昭/絵 偕成社 2004）

10 日『おっきくなったら』（エマ・ドッド/文・絵 たなかゆうこ/訳 バベル
プレス 2012）

『あおくんときいろちゃん』（レオ・レオーニ/作 至光社 1967）



平成 25 年 1 月 9 日



平成 25 年 1 月 10 日

読みきかせの絵本は、テーマに合わせ一人ひとり選んだものです。
おはなし会は、子どもたちとのやりとりも交えながら進んでいきました。
子どもたちは読みきかせに耳をすませ、絵本の世界を楽しんでくれた様子
でした。会終了後の高校生の皆さんのおだやかな笑顔が印象的でした。

事業担当：参考・郷土室，児童閲覧室

清水主任司書，赤石主任司書，奈良司書

『平成 24 年度「高校生による、子どもの読書活動アシスト」記録集』

2013 年 3 月 31 日 発行

青森県立図書館 参考・郷土室 編

発行者 青森県立図書館 参考・郷土室

発行所 青森県立図書館

〒030-0184 青森市荒川字藤戸 119-7

電話 017-729-4311